

V. 多文化共生について（問 9～問 11）

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことを言います。豊橋市では、『豊橋市多文化共生推進計画 2014-2018』を策定し、多文化共生の実現に向けて、様々な事業を推進しています。

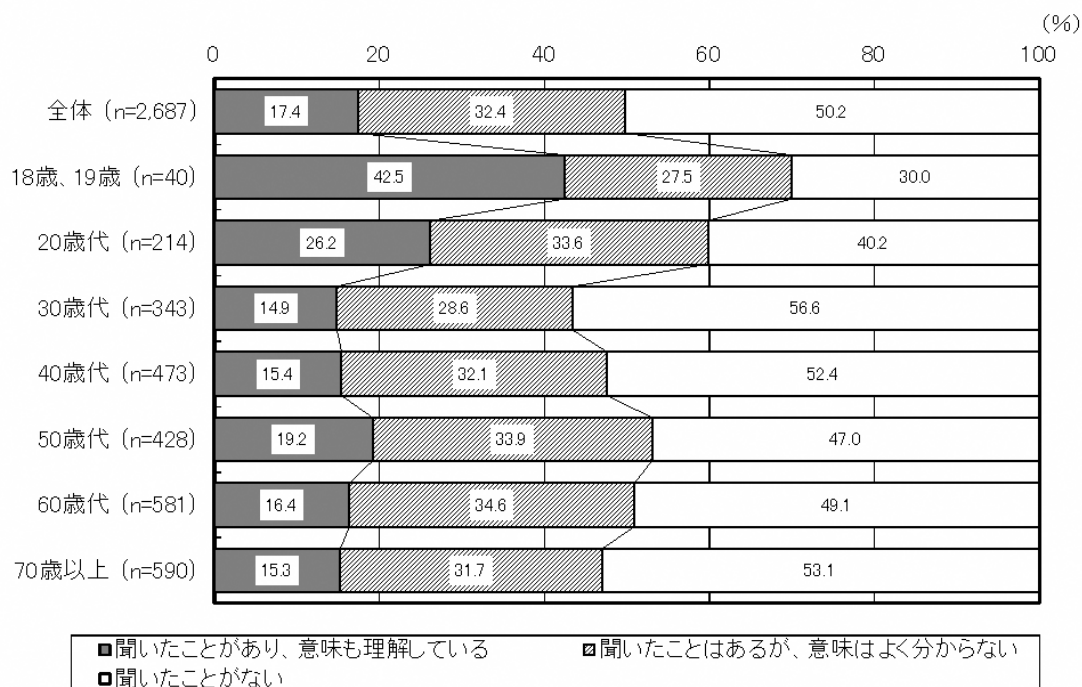
【問 9】あなたは「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。(n=2,687)

(1) 全体的傾向

「聞いたことがない」と回答した人の割合が約 50%で、「聞いたことがあり、意味も理解している」と「聞いたことはあるが、意味はよく分からない」を合わせた「聞いたことがある」人の割合が約 50%となっている。

(2) 年代別にみた特性

18 歳、19 歳と 20 歳代で、「聞いたことがあり、意味も理解している」と「聞いたことはあるが、意味はよく分からない」を合わせた「聞いたことがある」と回答した人の割合が約 60%～70%となっており、他の年代と比べ高くなっている。



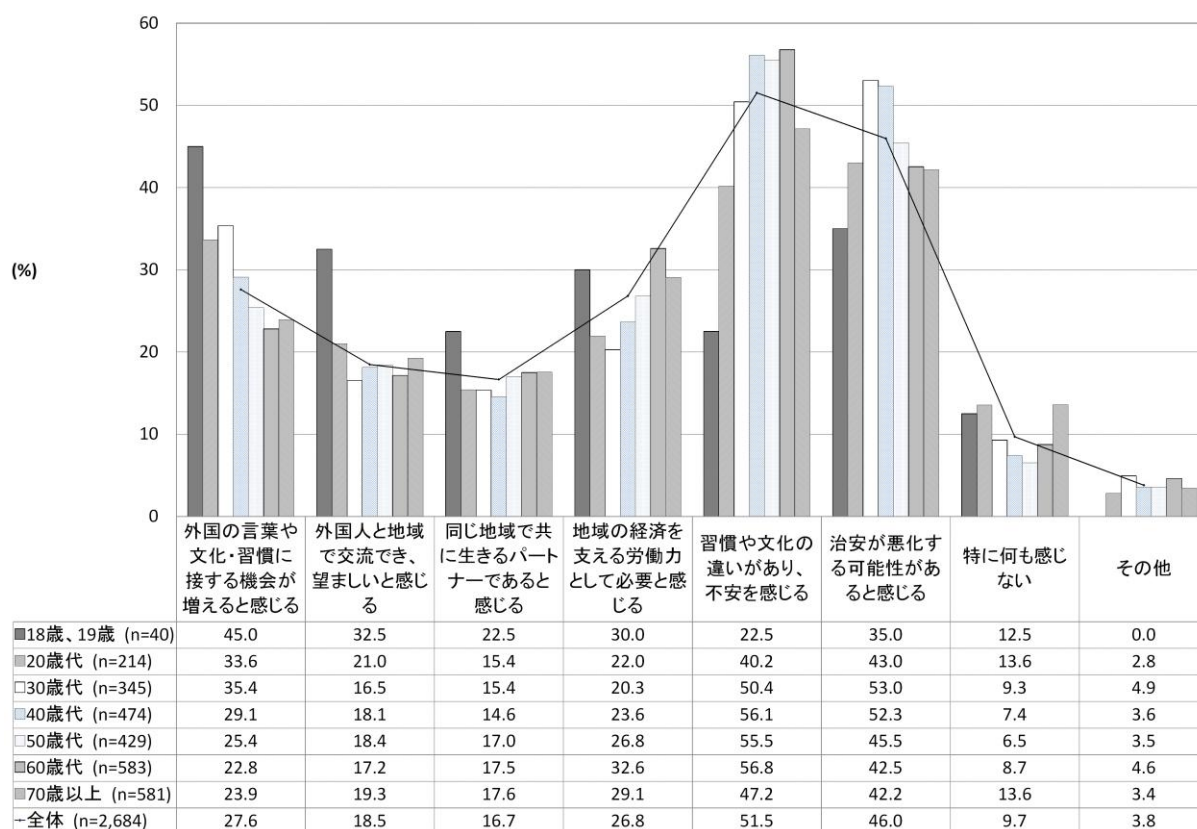
【問 10】豊橋市には約 1 万 5 千人の外国人市民が共に暮らしています。あなたは地域に外国人市民が増加することをどう感じますか。(複数回答：n=2,684)

(1) 全体的傾向

「習慣や文化の違いがあり、不安を感じる」と回答した人の割合が約 52%と最も高く、次いで「治安が悪化する可能性があると感じる」(約 46%)、「外国の言葉や文化・習慣に接する機会が増えると感じる」(約 28%)と続いている。

(2) 年代別にみた特性

20 歳代以上では、「習慣や文化の違いがあり、不安を感じる」(約 40%~57%)、「治安が悪化する可能性があると感じる」(約 42%~53%)と回答した人の割合が高くなっている。一方、18 歳、19 歳では「外国の言葉や文化・習慣に接する機会が増えると感じる」と回答した人の割合が 45%と高くなっている。



【問 11】あなたは外国人市民と共に暮らしやすい社会にしていくためには、どんな取り組みが必要であると思いますか。(複数回答：n=2,629)

(1) 全体的傾向

「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が約76%と最も高く、次いで「外国人市民への日本語の学習機会の提供、外国人市民の児童・生徒の教育の充実」(約45%)、「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」(約43%)と続いている。

(2) 年代別にみた特性

各年代とも、「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が約71%~78%と最も高くなっている。

